
父親不在

ダイユウモソク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父親不在

【Zコード】

Z5196D

【作者名】

ダイユウモンスク

【あらすじ】

幼少に父親を病氣で無くした主人公。普通に生きてきたつもりだが、成長するに連れ、何かが他人と違うことに気がついていく。異質な恋愛、親子愛に。母子家庭のせきららな一面を、えぐつてみました。

第一話 母の弟が、父親

「片親なのに、しつかりして、明るい子ね」。

高校の時、付き合っていた彼の親に言われた一言。いつも心の隅に居すわり続けている。

幼い時に、父は病気で私の前から消えた。それも、あっけなく。一人で父を看病する母。母の弟が、色々、気をつかつて手伝つてくれていた。

「この人が、次のお父さんになるんだから、大丈夫」。
誰に言われたわけでもないのに、そう思つていた。無意識に思い込んだのだろう。

入院から1ヶ月で父は亡くなり、さらに、1ヶ月もたつと、親戚の姿もない。

父が世の中から消えて、2ヶ月後。小学校から自宅に帰る途中、ふと考えた。

「次のお父さんはいない」。外で、一人で思いつき泣きじやくつた。死んだ時に、涙一つでなかつたのに。

色々な機械を口から鼻から付けられ、親戚が集まる中、父は死んだ。隣の家に預けられていた私は、死ぬ2時間前に病院へ母と親しいおばさんに連れられた。

「多分、死んじやうんだな。でも、母の弟がいるから大丈夫」と思つていた。

母は泣き崩れ、私に言った。

「これからは、2人で生きていくこうね」。7歳の私はなんとなく、うなづくことしかできなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5196d/>

父親不在

2010年10月9日22時42分発行